

	○特別支援教育	支援体制の確立	・特別支援教育に関する専門性を高めるために年に3回の校内研修を行う。 ・支援を必要としている子を把握し、個に応じた支援を行う。	・関係機関と連携し、専門の講師を招聘して職員研修を行う。 ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めるため適切な指導及び必要な支援を行う。 ・必要に応じて、個別の支援計画を作成する。	B	○夏休みにSCを招いて、職員研修を行うことができた。 ○適宜、ケース会議を開催し、共通理解のもと、個に応じた支援を行うことができた。 ○個別の支援計画に沿った支援を行った。	・通常学級に支援を必要としている子がいないか見極め、個に応じた支援を行う。
--	---------	---------	--	--	---	--	---------------------------------------

③ たくましい子ども(保体)保健・体育 中間評価(1学期末評価)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評価	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
	●健康・体づくりの推進	・心身ともに健康な児童の育成	・体育科の授業の充実を図り、運動が好きな子どもを育てる。(県教委の「体力向上推進事業への参加」) ・遊び場の環境を工夫し、外遊びを奨励する。	・体育の授業づくりについて意見交換をする場を設ける。 ・「にこにこタイム」や体育委員会の掲示板などを使って外遊びを紹介し、その遊びの楽しさを伝え、外で体を動かして遊ぶようにする。 ・一輪車週間やなわとび週間を設け、達成感や遊びの楽しさを体感させる。	A	○4月の職員会議で、体育の授業づくりについて、基本的な考え方を体育主任より紹介し、職員で共通理解を図ることができた。 ○スポーツテストや水遊び・水泳指導について、ポイントをおさえた資料を提供したことで、職員の指導力向上につながった。 ○体育委員会の活動の取り組みとして、スポーツレクリエーションを実施したり、縦割り活動の「にこにこタイム」で、遊びの内容について、工夫をしたりしたことで、昨年より、外遊びや一輪車をする児童が増えた。	・体育の授業づくりにおいては、今後も、具体的な実践例などを資料やデータ等で紹介し、共有できるようにする。 ・縦割り活動での「にこにこタイム」や体育委員会の掲示板等で、運動の楽しさを伝えたり、外遊びの紹介をしたりする。 ・スポーツレクリエーションの内容をさらに工夫する。 ・2学期に、一輪車週間やなわとび週間を設け、達成感や遊びの楽しさを体感させる。
教育活動	○望ましい生活習慣の形成	・健康的な生活習慣の定着	・「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化できている児童を90%を目指す。 ・年間を通して、立腰・手洗い・うがい・歯みがき・帽子着用を実施し、自分で健康管理ができる。 ・毎月1日に「ノーテレビ・ノーゲーム」を実施し、実施率を90%以上にする。	・定期的に「蛸っ子カード」(生活点検表)を実施し、親子で生活習慣を見つめ直しながら、望ましい生活習慣の定着をはかる。 ・手洗い・うがい・歯みがきを習慣化し、感染症予防に努める。また、歯科科医・保健センターと連携し、歯科保健指導をすすめる。 ・メディアの影響について知らせ、時間を決めて利用できるようにする。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーについては、家庭の状況に応じて実践する。保護者にも協力を呼びかける。	A	○定期的に、「蛸っ子カード」に取り組むことで、生活習慣の見直し・改善につながっている。 ○今年度から、毎週月曜日に「衛生検査および朝ごはん調査」を実施していることにより、児童の衛生に対する意識が変化してきている。朝食の欠食状況については、ほぼゼロである。 ○歯科検診前後に、歯みがき週間を設定し、正しい歯みがき意識を醸成させた。2・4年生については、学校歯科医、歯科衛生士や市の健康づくり課による専門的な指導で、歯みがきの大切さを実感させることができた。 ○「ノーテレビ・ノーゲームデー」の取り組みは、親子読書の奨励や広報の仕方の工夫により、実施率の向上が見られた。	・「蛸っ子カード」、「衛生検査および朝ごはん調査」、「ノーテレビ・ノーゲームデー」ともに、できている児童をそうでない児童で、個人差が大きい。全体指導だけでなく、内容に応じて、個別の対応が必要である。学級懇談会等で、保護者への啓発、協力依頼をする。 ・「衛生検査および朝ごはん調査」を継続し、実施把握だけでなく、習慣化できるように、さらに指導していく。 ・11月に、1・3・5年生に、養護教諭による歯みがき指導を実施する。2月に、6年生に、学校歯科医、歯科衛生士による歯みがき指導を実施する。 ・保健だよりで、メディアの影響について知らせ、「ノーテレビ・ノーゲームデー」の実施の意味を伝える。
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の形成	・食事のマナーを守り、好き嫌いなく食べる児童の育成	・好き嫌いなしでしっかり食べる。 ・食器の持ち方や姿勢に気をつけて食べる。	・食育の授業や給食だより、給食委員会の発表などを通して、食の大切さを知らせる。 ・5月・10月は、担任が実態を把握し、正しいマナーを身につけさせる。	A	○栄養教諭を招いて、食育の授業を実施し、食の大切さを指導することができた。(全年実施予定) ○6月に、給食マナー週間を設定し、マナーの向上に努めた。 ○給食委員会の活動の取り組みとして、食器破壊をしなかった学級に、賞状を渡すように工夫したことで、意識づけがなされ、破壊が少なくなった。	・2学期の給食週間の時に、給食委員会による発表(児童集会)を計画し、全校児童に食の大切さについて知らせる。 ・マナーと合わせて、食器の破壊についての取り組みも継続して行う。 ・栄養教諭と連携し、給食だよりの発行により、家庭にも、食育についての様々な情報を知らせる。

④ 学び続ける子ども(学習)学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評価	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
	○学習習慣の定着	基本的な学習習慣の定着	・話をしている相手を見て、最後まで聞くことができている児童90%を目指す。 ・家庭学習も、怠けずに取り組んでいると答える保護者90%を目指す。	・話を聞く習慣づけの徹底指導 ・「読む」「書く」「計算」の宿題を継続的に取り組む。 ・「家庭学習の手引」「市学びの習慣づくり」等の保護者への配布・説明を行い学校・家庭が連携して取り組む。	B	○人の話を静かに聞くことができていた。 △話をしている相手を見ていない点が多分である。 ○家庭学習については、内容や方法などについて情報交換をして取り組んでいた。また、家庭学習ができていない児童には放課後、校外も加わって指導してきた。	・相手を意識して聴けるように、機会ある毎に指導していく。 ・内容、方法だけでなく、個に応じた指導も併せて取り組んでいく。
教育活動	●学力の向上	算数科における思考力及び表現力を育てる指導方法の工夫	・算数科において、児童の思考力・表現力を高めるための授業づくりを通して、活用力を育てる。 ・算数科の標準学力検査において、各学年全国平均以上を目指す。	・思考力・表現力を高めるような授業づくりを行う。 ・児童の興味・関心・意欲や思考を引き出すための教材の研究・開発を行う。 ・児童の実態に応じた少人数指導・TT指導を充実させる。 ・計算タイムや補充学習について級外も加わり、全職員で指導に臨む。	B	○月に1回朝の「計算タイム」「ことばタイム」で活用力を養う問題に取り組んだ。 ○思考力・表現力を高めるための研究授業や研究会を行い、研修を深めた。 ○児童の実態に応じて少人数授業やTTによる授業を行った。	・校内研究で講師を招聘し、思考力や表現力を高める授業の研修を深める。 ・教材の研究開発のための時間を確保する。
	○読書指導	読書指導の推進	・年間平均100冊(1～4年)、60冊(5、6年)の読書を作成する児童を各クラス90%以上を目指す。 ・いろいろなジャンルの本に挑戦できる児童を増やす。	・100冊、60冊達成した児童を屋の放送で紹介する。 ・教師や保護者ボランティアによる読み聞かせを実施するとともに、図書館祭りの機会を利用し、読書への意欲を喚起する。 ・「親子読書閲覧板」を実施し、家庭でも読書をするきっかけを与える。	A	○図書の出貸時間が増やしたことで、図書室を訪れる児童が増え、貸し出し数も増えた。 ○10月現在、8割近くの児童が年間の目標を達成できていた。 ○図書の時間を活用して、いろいろなジャンルの本の読み聞かせを行った。 △巡回図書を読む冊数が伸び悩んでいる。	・巡回図書の本の選定を工夫する。 ・図書館まつりの機会をおととして、いろいろなジャンルの本に親しませる取組を行う。
	●ICT利活用教育の推進	ICT利活用教育指導の推進	・コンピュータや電子黒板、インターネット等を活用して、授業に主体的に取り組む児童を増やす。	・教職員がICTを活用した実践的な教育活動を行うことができるように職員研修の充実を図る。 ・情報化推進リーダーを中心とした校内研修体制を整える。	A	○全普通教室に電子黒板やデジタル教科書は設置されたので、どの学年でも子どもの主体的な学習を進めることができた。 ○夏季休業中に職員研修を実施し、利活用についての研修を深め、共通理解を図ることができた。	・授業実践、情報交換を進めていくとともに、自作教材などの保存先を一元化し、いつでも誰でも使える環境を整える。

本年度の重点目標の評価項目として含まれていない共通評価項目がある場合に記入する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目 中間評価(1学期末評価)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評価	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
学校運営	○魅力ある学校づくり	地域・保護者と連携した児童の育成	・地域人材を活用した体験的な学習活動を行い、豊かな心を育成する。 ・地域関係団体、保護者等と連携して、基本的な生活習慣の徹底を行う。	・各学年に地域人材を生かした学習活動を教育課程に位置づけて実施する。 ・地域関係団体との協議の場を設け、学校の教育活動について理解を求め、支援を要請する。 ・地域・保護者との連携で、あいさつ等の基本的な生活習慣の徹底を図る。	A	○教育計画に基づいて、計画的に地域コミュニティと連携した事業ができた。 ○積極的に宇宙科学館などの諸団体による出前講座を実施することができ、諸団体との連携が図られた。 ○子どもたちを見守るため、地域・保護者と連携して交通指導、挨拶指導等も行った。	・「教育の日」に保護者・地域の方々へ交流の機会を設け、地域人材を活用した体験的な学習を実施する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目